

実施報告書

2025 年度日系社会次世代育成研修
(中学生招へいプログラム) 第 2 陣

2026 年 1 月 13 日~2 月 5 日



2026 年 3 月

独立行政法人国際協力機構 (JICA)

公益財団法人海外日系人協会

目次

1. 日系社会次世代育成研修(中学生招へいプログラム)の概要	2
2. 参加者情報	4
3. 2025年度第2陣 プログラム日程	6
4. プログラム内容	7
5. 引率者の所感	30
引率者 橋元 美苗(ブラジル)	
菊池 魁人(パラグアイ)	
兼島 ミカ アレクサンドラ(アルゼンチン)	
6. 総評	31

【参考】2025 度「日系社会次世代育成研修(中学生招へいプログラム)」募集要項

1. 日系社会次世代育成研修（中学生招へいプログラム）の概要

(1) 研修の沿革および目的

本研修は独立行政法人国際協力機構(JICA)が中南米地域への移住者の定着・安定のために移住者子弟教育として 1987(昭和 62)年度に「日本語学校生徒研修」として開始し、2012(平成 24)年度からは、名称を「日系社会次世代育成研修」、2015(平成 27)年度からは「日系社会次世代育成研修(中学生招へいプログラム)」として実施しています。

本研修では、海外の日本語学校に在籍する成績優秀かつ品行方正で将来の日系社会の発展に貢献するのに十分な素質のある日本語学校生徒が、日本人の海外移住の歴史に関する学習、中学校体験入学、ホームステイ、その他の各種研修を通じて、自分たちのルーツに対する理解と日本に対する理解を深め、さらに自らの日系人としてのアイデンティティの強化を図ることを目的としています。さらには、本研修が日系社会での日系継承語教育の振興を促し、日系社会の次代を担う人材の育成に寄与することを上位の目標としています。

(2) 対象国および人数

通常：第 1 陣は 5 カ国 13 名、第 2 陣は 5 カ国 36 名の 10 カ国 49 名

第 1 陣：カナダ、メキシコ、ドミニカ共和国、コロンビア、ベネズエラ

第 2 陣：ブラジル、ペルー、ボリビア、パラグアイ、アルゼンチン

2025 度：第 2 陣は 5 カ国 36 名(他引率者 3 名)で実施

研修員出身国内訳

受入		対象国	研修員参加者数	引率者	備考
第 2 陣	5 カ国 36 名 (引率者 3 名)	ブラジル	20名(男10名 女10名)	1名(男0名 女1名)	
		ペルー	4名(男1名 女3名)	0名(男0名 女0名)	
		ボリビア	3名(男0名 女3名)	0名(男0名 女0名)	
		パラグアイ	3名(男1名 女2名)	1名(男1名 女0名)	
		アルゼンチン	6名(男2名 女1名)	1名(男0名 女1名)	
		計	36名(男14名 女22名)	3名(男1名 女2名)	

(3) 研修期間

現地の学校事情に合わせ、上記(2)のとおり 2 グループに分けて実施しています。

第 1 陣：毎年度 6 月第 2～3 週から 24 日間程度

第 2 陣：毎年度 1 月第 2～3 週から 24 日間程度

(4) 研修概要

プログラム	内容	研修場所
移住学習	海外移住資料館の見学 移住に関する講義、ワークショップ 各研修員のルーツを探る	JICA 横浜 史跡、博物館等
体験入学	授業出席 部活動 日本の中学生との交流等	横浜市内の中学校
ホームステイ	日本での実生活体験 ホストファミリーとの交流	神奈川県近郊の各ご家庭
研修旅行、 所外研修	神社仏閣・城の見学、日本文化体験、 社会教育施設・博物館等の見学	関西方面、 神奈川県近郊
その他	プレゼンテーション指導 作文指導 研修報告会	JICA 横浜

2. 参加者情報

No.	国名	所属日本語学校名 /所在地	①日本で体験したいこと ②趣味・特技等	得意な 学科
1	ブラジル	スザノ金剛寺学園 /サンパウロ州スザノ市	①日本の生徒と柔道・剣道の稽古とユニバーサル ②スポーツ	数学、 英語
2	ブラジル	ドウラードス日本語モデル校 /南マットグロソ州ドウラードス市	①お寿司を食べたい ②大正琴、マンガの本	-
3	ブラジル	アラサツバ日本語普及センター /サンパウロ州アラサツバ市	①カラオケボックスで歌いたい、のどまんを見に行きたい、日本の学校 ②歌、ピアノ、バレーボール、そろばん	数学、 英語
4	ブラジル	エピスコパル /サンパウロ州サンパウロ市	①スキー、和牛・さしみ・ラーメンが食べたい ②ゲーム、ピアノ	陸上競技
5	ブラジル	松柏学園 /サンパウロ州サンパウロ市	①ラーメン・お寿司を食べたり、スキーをしたり、文化を学ぶ、友達を作る ②テニス	生物学
6	ブラジル	パウルセア文化福祉協会 /サンパウロ州サン・ベルナルド・ド・カンポ市	①富士山を見たい、京都・東京に行きたい ②ボーイスカウト、キックボクシング、プラモデル、ハイキング	-
7	ブラジル	クリチバ日伯文化援護協会 日本語講座 /サンパウロ州クリチバ市	①日本の文化を学びたい、色々な日本料理を食べたい ②音楽、読書	歴史、 科学
8	ブラジル	サウーデ文協日本語学校 /サンパウロ州サンパウロ市	①コンビニへ行きたい、富士山が見たい ②絵を描くこと	-
9	ブラジル	ロンドリーナ・モデル校 /パラナ州ロンドリーナ市	①東京の築地・お寺に行ってみたい ②サッカー、ゲーム、日本語の勉強	数学
10	ブラジル	ピラール・ド・スール日本語学校 /サンパウロ州ピラール・ド・スール市	①日本の学校を訪問したい、体験をしたい、東京に行きたい ②日本語、読むこと、歌うこと	数学
11	ブラジル	ゴイアス日本語モデル校 /ゴイアス州ゴイアニア市	①古いお寺に行って日本の歴史を知りたい ②サッカー、バスケット、太鼓	体育
12	ブラジル	ブラジリア日本語モデル校 /ブラジリア連邦直轄区ブラジリア市	① - ②読書、裁縫	数学
13	ブラジル	パラカツ日本語学校 /ミナスジェライス州パラカツ市	①日本料理を食べたい、文化と生活を見たい、富士山へ行きたい ②スポーツ、絵を描くこと	数学
14	ブラジル	ミナス日本語モデル校 /ミナスジェライス州ベオリゾンテ市	①新幹線に乗りたい、コンビニで食べたい、東京ディズニーに行きたい ②バレーボール、おどり	数学
15	ブラジル	リオデジャネイロ日本語モデル校 /リオデジャネイロ州リオデジャネイロ市	①富士山を見たい、コンビニへ行きたい、たくさんのお菓子を買いたい ②バレーボール、絵を描くこと	-
16	ブラジル	ロンドニア州日伯文化協会日本語教室 /ロンドニア州ポルト・ヴェーリョ市	①雪を見たい、日本人の友達を作りたい、お寺を見たい ②ピアノ、ギター、和太鼓	数学、 化学
17	ブラジル	マナウス日本人学校 /アマゾナス州マナウス市	①日本の中学校のバレーボール部で練習したい ②バレーボール	数学、 英語
18	ブラジル	トメアスー日本語学校 /パラ州トメアスー市	①日本の中学生の日常生活・学校の授業を体験したい ②バレーボール、ゲーム、日本の漫画を読むこと	数学、 化学
19	ブラジル	トメアスー日本語学校 /パラ州トメアスー市	①富士山を見たい、色々な味のラーメンが食べたい ②空手	数学
20	ブラジル	レシフェ日本語学校 /バランブコ州レシフェ市	①観光名所巡り、文化体験、日本のテクノロジー、食文化 ②テクノロジー、ゲーム	歴史

No.	国名	所属日本語学校名 /所在地	①日本で体験したいこと ②趣味・特技等	得意な 学科
21	ペルー	ラ・ビクトリア日系人学校 /リマ州リマ市	①日本の文化・習慣を身につけたい ②トランポリン、ピアノ	音楽
22	ペルー	ラ・ウニオン ペルー日系人学校 /リマ州リマ市	①日本人の学生に会いたい ②日本語、スポーツ	数学
23	ペルー	ペルー日系人協会 /リマ州リマ市	①移民についてどんな影響があったか・どんな生活をしてたのか知りたい ②アニメの絵を描くこと	数学、 英語
24	ペルー	ラ・ウニオン ペルー日系人学校 /リマ州リマ市	①日本の文化を学び、歴史を知り、日本語を練習したい ②日本語、卓球、サッカー、アニメ	-
25	ボリビア	ヌエバ・エスベランサ日本語学校 /サンタクルス州オキナワ第二移住地	①日本文化について知り、多くの人と会い、色々な場所を観光したい ②エイサー、ソフトボール	英語
26	ボリビア	サンタクルス日本語教室 /サンタクルス県サンタクルス市	①中学校体験入学、ホームステイ、旅行 ②ピアノ、バレエ	英語
27	ボリビア	サンファン学園 /サンタクルス県サンファン市	①部活、海と雪が見たい、電車に乗りたい、日本のお菓子が食べたい ②工作、折り紙、レタリング、バレーボール	-
28	パラグアイ	エンカルナシオン日本語学校 /イタプア県エンカルナシオン市	①和太鼓の練習を体験すること、まだ会ったことのないおじ・おば・いとこに会うこと ②和太鼓、野球	数学
29	パラグアイ	アスンシオン日本語学校 /アスンシオン市	①日本の授業を受けてみたい、新幹線に乗ってみたい ②読書、絵を描くこと	理科、 美術
30	パラグアイ	アスンシオン日本語学校 /アスンシオン市	①雪だるまを作りたい、スキーを体験したい、コンビニのおにぎりを食べたい ②バレーボール	体育、 図画工作
31	アルゼンチン	ブエノスアイレス日亜学院 /ブエノスアイレス市	①中学生の日常生活、同じ年の学生と日本語会話 ②水泳	英語、 生物 (理科)
32	アルゼンチン	ラプラタ日本語学校 /ブエノスアイレス州ラプラタ市	①有名な場所へ行きたい、おいしい食べ物を食べたい ② -	英語、 歴史
33	アルゼンチン	フロレンシオバレラ日本語学校 /ブエノスアイレス州フロレンシオバレラ市	①学校での日常生活を体験したい ②サッカー	物理
34	アルゼンチン	ガルアペ日本語学校 /ミシオネス州ガルアペ市	①弓道、剣道 ②写真、魚釣り、陸上競技	算数、 英語、 地理学
35	アルゼンチン	ブエノスアイレス日亜学院 /ブエノスアイレス市	①日本の学校の授業に参加したい、伝統的な文化と他の国の文化に触れたい ②日本語、日本文化	体育
36	アルゼンチン	ブエノスアイレス日亜学院 /ブエノスアイレス市	①同じ年齢の学生と交流したい、学んだ日本語と日本文化を実際に見て聞いて話して体験したい ②日本文化	歴史、 体育

No.	国名	所属/所在地
引率者	ブラジル	ピリチーバミリン日本語学校 /サンパウロ州サレンソポリス市
引率者	パラグアイ	エンカルナシオン日本人会青年部 /イタプア県エンカルナシオン市
引率者	アルゼンチン	ブエノスアイレス日亜学院 /ブエノスアイレス市

3. 2025年度第2陣 プログラム日程

つき	日	曜日	ご ぜ ん 前			ご 後			よる 夜	び 考 考	
			あさ かい 朝の会 9:30	びん 1限 9:40-10:30	びん 2限 10:40-11:30	びん 3限 11:40-12:30	びん 4限 14:00-14:50	びん 5限 15:00-15:50			びん 6限 16:00-16:50
1 月	13	か 火	らいにち きょうざい びん びん かい じこしょうかい さいすん 来日 (教材・備品の配布・自己紹介、うわばき採寸など)						なし	よこはま JICA横浜 チェックイン	
	14	すい 水	あさ かい 朝の会	らいにち 来日プリーフィング、来日アンケート、 もくひょうせつてい 目標設定	らいにち	み 身だしなみ整理、 リハーサル	かいこうしき 開講式	ちゅうがっこうたいけん 中学校体験プリーゼ じゅんぴ ンテーション準備	ゆうがた かい 夕方の会	○	
	15	もく 木	あさ かい 朝の会	アイスブレイク		いじゅうがくしゅう 移住学習①			ゆうがた かい 夕方の会	○	
	16	きん 金	あさ かい 朝の会	いじゅうがくしゅう 移住学習②		しょうがいけんしゅう 所外研修①			ゆうがた かい 夕方の会	なし	
	17	ど 土	きゅうじつ 休日	きぼうしや よこはましゅうへん さんさく (希望者でJICA横浜周辺を散策します)						なし	ふくりこうせい 福利厚生①
	18	にち 日	きゅうじつ 休日							○	
	19	げつ 月	あさ かい 朝の会	ちゅうがっこう たいけんにゅうがく じゅんび 中学校 体験入学 準備 (オリエンテーション)		けんしゅうきょこう じぜんがくしゅう 研修旅行 事前学習	ホームステイ じぜんがくしゅう 事前学習	ゆうがた かい 夕方の会	○	けんしゅうりょこうにもつ じゅんび 研修旅行の荷物の準備	
	20	か 火	けんしゅう りょこう こうべ いじゅうがくしゅう 研修 旅行 (神戸) ※移住学習③						○	いっぱくふつか 一泊二日 きょうと しめばく 京都で宿泊	
	21	すい 水	けんしゅう りょこう きょうと 研修 旅行 (京都)						○		
	22	もく 木	あさ かい 朝の会	ちゅうがっこう ほうもん みなみちゅうがっこう 中学校 訪問 (南 中学校)					ゆうがた かい 夕方の会	○	
	23	きん 金	あさ かい 朝の会	にほん まな 日本で学ぶ		ちゅうがっこう じ ぜんあいまつ 中学校 事前挨拶			ゆうがた かい 夕方の会	○	
	24	ど 土	ホームステイ						なし	うち しめばく ホストファミリーのお家で宿泊	
	25	にち 日	ホームステイ						○		
	26	げつ 月	あさ かい 朝の会	しょうがいけんしゅう 所外研修②					ゆうがた かい 夕方の会	○	
	27	か 火	ちゅうがっこう たいけんにゅうがく おおとり なかおだい ほんもく みなと よこはまよしだ ちゅうがっこう 中学校 体験入学 (大鳥・仲尾台・本牧・港・横浜吉田 中学校)						○		
	28	すい 水	ちゅうがっこう たいけんにゅうがく おおとり なかおだい ほんもく みなと よこはまよしだ ちゅうがっこう 中学校 体験入学 (大鳥・仲尾台・本牧・港・横浜吉田 中学校)						○		
	29	もく 木	ちゅうがっこう たいけんにゅうがく おおとり なかおだい ほんもく みなと よこはまよしだ ちゅうがっこう 中学校 体験入学 (大鳥・仲尾台・本牧・港・横浜吉田 中学校)						○		
	30	きん 金	あさ かい 朝の会	こくご さくぶん か 国語 (作文の書きかた)	ほうこくしよ さくせい さくぶん 報告書 作成 (作文)			ゆうがた かい 夕方の会	なし		
	31	ど 土	きゅうじつ 休日	きぼうしや よこはまきんこう さんさく (希望者で横浜近郊を散策します)						なし	ふくりこうせい 福利厚生②
	2 月	1	にち 日	きゅうじつ 休日						○	
		2	げつ 月	あさ かい 朝の会	ほうこくしよ(さくぶん)のせいしよ 報告書 作成 (作文の清書)		ほうこくかい じゅんび 報告会 準備① プレゼンテーション作成		ゆうがた かい 夕方の会	○	
		3	か 火	あさ かい 朝の会	きこく 帰国プリーフィング・ 帰国時アンケート	ほうこくかい じゅんび びん びん 報告会 準備② 発表 練習		にもつ じゅんび にもつ けいりょう 荷物 準備/荷物 計量		○	いんそつしよ ほうこくかい 引率者 報告会
		4	すい 水	あさ かい 朝の会	ほうこくかい じゅんび 報告会 準備③ リハーサル			(14:00-16:00) けんしゅういんほうこくかい 研修員 報告会	(17:00-17:30-18:30) へいこうしき そらべつかい 閉講式・送別会	○	
		5	もく 木	きこく 帰国						-	よこはま JICA横浜 チェックアウト

4. プログラム内容

来日

2026年1月13日(火)

ブラジル、ペルー、ボリビア、パラグアイ、アルゼンチンの南米5か国から、研修員36名と引率者3名の計39名が来日しました。

研修員たちは早朝から夜にかけて、それぞれの国から成田空港・羽田空港に到着しました。空港到着後は JICA 横浜センターへ移動し、研修のスタートを迎えます。



ブラジル、ボリビアからの研修員

最後のグループが JICA 横浜センターに到着したのは 21 時を過ぎた頃で

した。長旅の疲れも見られましたが、これから共に研修に参加する仲間と顔を合わせると、互いに声を掛け合い、交流を深めていました。今後の研修に向けた期待と意欲が感じられる初日となりました。



初めて顔を合わせた日

開講式

2026年1月14日(水)



開講式での自己紹介

前日の対面は短い時間であったにもかかわらず、開講式当日の朝には、すでに友人のように打ち解けている研修員の姿がありました。これからさまざまな活動を通して、研修員同士の交流がさらに深まり、友情が育まれていくことへの期待が高まります。

また、この日からいよいよ研修員としての活動がスタートしました。朝の会では、研修員が自分たちでその日の目標を決め、発表しました。初日の目標は「みんなの名前を覚え、友達と仲良くなる！」というものでした。スペイン語、ポルトガル語、日本語を交えながら交流し、言語の違いを越えて互いの名前を覚え合う姿からは、友情を育もうとする積極的な様子がうかがえました。

開講式では、JICA 横浜センターの大野所長より、本研修における大切な3つのポイントについてお話がありました。

- ① この研修が横浜で行われる理由
- ② この研修で皆さんに学んでほしいこと
- ③ 日系社会、日系人の皆さんに期待していること

また、研修員の皆さんは、開講式に出席された方々の前で、日本語による自己紹介を行いました。早速、日本語での生活が始まり、日本語で話すことに緊張するという声も聞かれましたが、堂々と大きな声で、自分の名前や出身国についてしっかりと自己紹介を行っていました。




開講式 大野所長のご挨拶

研修目標設定・研修生活について

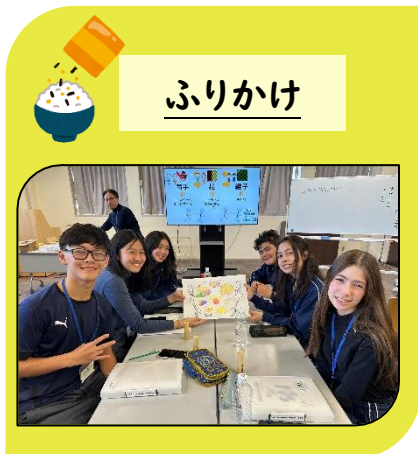
2026年1月14日(水)

自国で日本語を学んでいる研修員たちにとって、自分の気持ちを日本語で表現することは決して容易ではありません。慣れない日本語で一息懸命に言葉を紡ぎ出そうとする姿や、母語で思いを整理しながら丁寧に言葉にしていくながら様子が見られました。また、この研修に向けて事前に目標を準備してきた研修員もあり、それぞれが自分なりの方法で目標を表現していました。

研修の目標

 <p>せいけつ 生活</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達をたくさん作りたい; ・私は自分のことにもっと責任がある人になりたい; ・ルームメイトともっと仲良くなりたい; ・日本の中学校生徒と友達になりたい; ・恥恥さをなくしたい; ・Host family としんせつ になりたい。 ・もっと <u>しんぽう</u> 人になりたい。 	 <p>がくしゅう 学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本語を上達させたい; ・日本の文化を学びたい; ・日本人と同じように勉強したい; ・自分の家族の歴史をもっと知りたい; ・習ったことを伝えたい。 	 <p>せいけつ 生活</p> <ul style="list-style-type: none"> ↳ 自から人に話しかけたり、笑顔であいさつをしたい。 ↳ 友達をたくさん作りたい。 ↳ 早寝 早起き ↳ 体をこわさない。 	 <p>がくしゅう 学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ↳ 自から色々なことに挑戦する。 ↳ 中学校に行って、どんな学校生活をおくっているか知る。 ↳ 日本語をたくさんつかう。 ↳ 日本文化を学ぶ。
 <p>せいけつ 生活</p> <ul style="list-style-type: none"> ・たくさんの友だちをおつくりしたいです。 ・日本の <u>しんぽう</u> を学びたい。 ・日本の <u>ばいしん</u> にしたいです。 ・日本の <u>がくせい</u> とおたのしみになりたいです。 ・日本の <u>たけもの</u> を食べたいです。 ・ <u>がくせい</u> の日本では <u>せいけつ</u> に <u>おんご</u> みたいです。 	 <p>がくしゅう 学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本語を <u>ばうご</u> になりたいです。 ・日本の <u>ぶんか</u> について知りたいです。 ・ <u>かんじ</u> もっと <u>よめる</u> ようにしたいです。 ・日本語で <u>しごと</u> に <u>はなせる</u> ようにしたいです。 	 <p>せいけつ 生活</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あたらしいともだちを <u>あいたい</u> します。 ・ <u>じぶん</u> の家族の <u>ルール</u> と <u>のりながり</u> をより <u>ふかめたい</u> と <u>かんがえて</u> います。 ・ <u>家族</u> と <u>あいたい</u> します。 	 <p>がくしゅう 学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・もっと日本語を <u>話したい</u> します。 ・日本の <u>ぶんか</u> を <u>勉強したい</u> します。

研修員はグループ(生活班)に分かれて顔合わせを行いました。班長、副班長、見回り係、先生お助け係、スポーツ係などの役割を決めた後、グループ名をみんなで話し合いながら決めました。



研修グループ



アイスブレイク

2026年1月14日(水)

来日してから2日が経過しました。研修員たちは少しずつ日本での生活やリズムに慣れてきたところですが、お互いをさらによく知るため、アイスブレイクの活動を行いました。

アイスブレイクでは、講師の方々の進行のもと、言語や文化の違いを越え、ゲームを通じてグループワークやコミュニケーションを深める活動が行われました。さまざまなゲームや活動を通して、自然と多くの会話や交流が生まれ、会場には笑顔があふれていました。



特に印象的だったのは、長縄くぐりの活動です。提示されるさまざまなテーマに基づき長縄くぐりに挑戦し、成功するたびに喜びを共有することで、研修員同士の一体感が高まっていきました。言葉を多く交わさなくても、互いに声を掛け合いながら協力して課題に取り組む姿が見られ、相互理解の深化につながる活動となりました。言語の違いを越えた自然なコミュニケーションが生まれていました。



長縄くぐり

研修員の振り返りから

- ◇ アイスブレイクはとてもたのしくておもしろかったです。ぼくのともだちをもっとしりあうことがとてもよかったです。ほかのくにの人たちの名前を早くおぼえたいと思います。
- ◇ 今日はアイスブレイクでたくさんのひととはなしてあそびました。はなしてない人とも友だちになれるかしんぱいでしたがうまく行ってよかったです。
- ◇ このグループの人ともっとはなしたい。いろいろなことばで話したから、コミュニケーションはすこしむずかしかった。アイスブレイクはとてもたのしかった。でも私はちょっとつかれました。かんじかつどうはむずかしかったが、たくさんの人と話したからたのしかったです。
- ◇ アイスブレイクをやって、みんなとさらに仲良くなったと思います。色んなあそびをしてとても楽しかったです。これからも色んな国の人と仲良くしたいです。これからも同じ班の友達や今仲いい友達とどんどん仲を深めていきたいです
- ◇ 色んな人々とあそんだりたくさん笑ったりできました。
- ◇ アイスブレイキングはとてもよかったです。皆と一緒になわでにげて走ったことが本当に楽しかった。
- ◇ これからも同じ班の友達や今仲いい友達とどんどん仲を深めていきたいです。
- ◇ スペイン語を話せませんが、ブラジル人じゃない人とも話せてうれしかったです。
- ◇ 朝のアイスブレイクで色んな人たちと話せて良かったです。色んなゲームをしてとても楽しかったです。また話していない人たちと話せて良かったです。
- ◇ 今日はアイスブレイクがありました。とても楽しかったです。たくさんあたらしい人と話しました。さいしょは少し不安でしたがみなさんととても親切でした。
- ◇ アイスブレイクをやって、みんなとさらに仲良くなったと思います。色んなあそびをしてとても楽しかったです。これからも色んな国の人と仲良くしたいです。
- ◇ これからも同じ班の友達や今仲いい友達とどんどん仲を深めていきたいです。

移住学習 -横浜- -神戸-

移住学習 第1日目

移住学習 1 日目は、研修の導入として、日本人の海外移住について日本語で理解しながら楽しく学べるよう、さまざまなアクティビティを取り入れて実施しました。まず、移住に関する授業を行い、内容が難しくなりすぎないようにクイズを交えながら進めました。事前課題として母国で取り組んできた移住学習で得た理解や学びを補完し、さらに理解を深める機会としました。

その後、海外移住資料館を訪問し、講師のガイドのもと、展示ごとにクイズやワークを組み合わせ「クイズでめぐる資料館ツアー」を行いました。研修員はワークシートを手に展示を見学しながら、積極的に移住学習に取り組んでいました。

また、事前課題として行ってきた、自身のルーツに関する家族や親族へのインタビューを、グループ内で発表する時間を設けました。お互いの家族の歴史を共有し合うことで、自身のルーツやアイデンティティについて改めて見つめ直す貴重な機会となりました。

移住学習 第2日目

2 日目の移住学習では、フィールドワークとして JICA 横浜周辺にある移住に関連するララ物資の記念碑を視察しました。香淳皇后の御歌に触れながらララ物資についての解説を受け、戦後の厳しい状況の中で日本を支援しようと尽力した日系人の存在について理解を深めました。

また、横浜で本研修を実施する意義や、JICA 横浜に海外移住資料館が設置されている理由、横浜と海外移住との関係についても学びました。

さらに、これまで学んできた移住の歴史を振り返る活動として、「ミックスプレートを作ってみよう！」というワークショップ形式のアクティビティを実施しました。現地社会の中で日系社会がどのように溶け込み、新たな文化を創出してきたのかをテーマに、グループで考えました。文化の変遷と融合を食文化になぞらえて考察することで、日系社会が現地に与えた影響と、現在の多文化共生のあり方について深く洞察する機会となりました。



海外移住の歴史 クイズで学ぶ研修員



講師による資料館ツアー



クイズでめぐる資料館ツアー



ララ物資の記念碑を視察



移住学習の講義



ミックスプレート作成中



ミックスプレート

戦後の日本を支えてくれた ララ物資

第二次世界大戦後の日本では、みんなが食べるものや着るものに困っていました。そんな日本人たちにララというグループから食べ物や服、薬、靴や文房具などが届きました。ララは **Licensed Agencies for Relief in Asia** の頭文字を取った言い方です。アメリカをはじめ、ブラジルやペルーなど様々な国に移住した日系人が中心となって1946年から1952年までララ物資を送ってくれました。ララからのおくりものが最初に届いた横浜の港にはララへの感謝を記した記念碑があります。



ララ物資の記念碑

研修員の振り返りから

- ◇ せんぞのため日本人は海外にいじゅうした。かれらのけいけんにはとくにブラジルでのばっさいさぎょうをふくむはたけしごとがふくまれていました。
- ◇ 彼らは新たなチャンス、だいにじせきたいせんをさがしていたからであり、そしてせいふがかれらに大金をかせげると告げたからである。
- ◇ せんそうのあと、にほんではあんていしていませんでした。さいしょの移民のグループは、たくさんのかんごをがんばりました。来た時は、ぜんぶが森で、仕事がなくてたいへんだと思います。
- ◇ 私の身近に移住にくわしい人はいなかったので、私もよくは知りませんが、相当辛くて苦しい体験をしたと思っています。10歳の時にパラグアイへ移住した祖父は、移住当初のことをあまり話したがらないので、たまに話す内容も「食べ物の味を気になることはなかった、好きでもキライでも食べなきゃ死ぬ」と、ネガティブなのが当時の苦難を物語っていると思います。
- ◇ 今日、移民が国の文化に与えるえいきょうについて学びました。ほかの国の学生といっしょにミックスプレートを作ることは楽しかったです。
- ◇ 今日の移住学習の授業は班のみんなでミックスプレートを作りました。みんな絵が上手でびっくりしました。後は、横浜にあるララ物資を見に行きました。映像でしか見た事がなかったので、実際に見に行行って良かったです。
- ◇ 日本人がほかの国ぐににあたえたえいきょうは、文化間の料理のゆうごうでした。かれらはミックスプレートを作った。私の国には、日系文化の中にペルーと日本のぶぶんがゆうごうしています。それをまもりつづけたと思っています。日本人は移住して、新しい事をたくさん体験すると思います。
- ◇ 日本人はそのときにせんそうがおわったら新しいチャンスがあったら、海外に行きました。日本人はアルゼンチンでつかれる仕事をします。たとえば花を作るのはとてもつかれる仕事です。
- ◇ ほかの「国」にはもっときかいがたくさんありました。かれらはさべつをうけましたがいじゅうしたとちでじぶんたちのしゅうかんやぶんかをけいぞくしひろめることができました。

所外研修①、②

日本の文化や習慣、伝統工芸を学ぶとともに、日本の最先端の科学技術や現代としての東京の姿を多角的な学ぶことを目的として、2回にわたる所外研修を行いました。

1回目の所外研修では、東京・お台場にある日本科学未来館を訪問し、日本の最先端の科学技術について学びました。続く2回目の所外研修では小田原と鎌倉を訪れ、日本の文化や歴史について理解を深めました。

日本文化活動
日本科学未来館
フジテレビ
球体展望台



ジオコスモスの前で

日本科学未来館では、日本の先端科学技術に触れるとともに、地震データや世界人口の推移世界規模の課題を扱った展示を通して、データに基づき現状を学ぶ機会となりました。また、同館が用意しているワークシートを配付し、展示を見ながら取り組みました。

世界の状況が詳細に可視化されている展示に対しては驚きの声が上がリ、入口付近に展示されていた介護ロボットにも関心が集まりました。日本の科学技術の高さに驚くと同時に、その技術が高齢者支援などの分野に活用されている点に感銘を受け、「日本の思いやりを感じた」といった感想を述べる研修員も見られました。

また、フジテレビ球体展望室を訪れ、展望室から東京の街並みを見学しました。道中でも研修員たちは興味深そうに日本の様子を観察しており、「道中、渋滞が少ない」「大都市でありながらごみが落ちていない」といった声が聞かれました。自国の状況と比較しながら、日本の都市環境や交通事情に関心を示す様子が見え、帰国後には日本の街づくりや交通システムについても伝えたいという声が寄せられました。



日本科学未来館でのワークシート

「介護ロボットパロ」について調べる研修員



フジテレビ前で記念撮影

日本文化学習
鈴廣かまぼこ

かまぼこ作り体験では、日本の伝統的な食文化を「実践」を通じて学びました。指導はすべて日本語で進められたため、内容の理解に難しさを感じる場面もありましたが、研修員たちは講師の説明に注意深く耳を傾けながら、意欲的に取り組んでいました。日本に住んでいても日常生活ではなかなか経験することのできない貴重な体験の中、研修員からは「おばあちゃんが



鈴廣かまぼこでのかまぼこ・ちくわ作り体験

作るかまぼこの方がもっとおいしい」といった声も聞かれました。日系社会において日本の食文化が各家庭の味として大切に受け継がれてきた証であり、研修員が自らのルーツや家庭の記憶と、目の前の伝統文化を重ね合わせて捉えている様子象徴する、非常に示唆に富む場面でした。

本プログラムは、単なる調理体験を越え、自身のアイデンティティを再認識する貴重な機会となりました。

日本文化学習
小田原城
高德院
(鎌倉大仏)

所外研修②では、小田原城および高德院(鎌倉大仏)を訪問し、日本を代表する歴史的建造物や寺社について学びました。訪問に先立ち、各所についてグループごとに調べ学習を行い、建造物の歴史や成立の背景、特徴などを整理しました。



調べ学習の発表

本研修では、各活動において研修員自身が学びの主体となることを大切にしています。現地では、研修員がガイド役となり、事前に調べた内容をもとに説明を行いました。自ら調べた内容を他の研修員に伝える活動とすることで、学びをより深めるとともに、プレゼンテーション能力の向上にもつながることを期待して実施しました。



小田原城



高德院(鎌倉大仏)

研修員の振り返りから

- ◇ 今日とうきょうへ行きました。とうきょうでみらいかんと FUJI テレビに行きました。みらいかんはかがくはくぶつかんです。あそこでたくさんかつどうをして、むずかしかったが、がんばりました。おもしろいことをまなびました。たとえば 2011 年 3 月 28 日はせかいでいちばんじしんがある日でした。フジテレビでたくさんきれいなふうけいを見ました。
- ◇ 今日、かまくら・小田原に行きました。小田原じょうにさむらいについて学んで、本当のかたなを見ました。昼ごはんの時、私たちの作ったちくわを食べました。いいいけんでした。今日一日も感謝しています。ありがとうございます。
- ◇ 今日は小田原じょうとかまぼこミュージアムとこうとくいんに行きました。小田原じょうはとてもきれいだって、かんどうしました。そのあと、かまぼこミュージアムで、かまぼこちくわをつくって、すこしむずかしかったですが、とてもたのしかったです。そして、大仏を見ました。日本の文化のさまざまなそくめんを体けんできたので、その日はとてもしあわせな一日になりました。
- ◇ 私の曾祖父はさむらいでしたから、さむらい資料館に行くことができたのがうれしかったです。また、かまぼこを作りました難しかったけど、いい感じになった、おいしかったです。
- ◇ 今日は、小田原城天守閣に行きました。しろでは、やねのおねのだんにおかれた魚形のそうしょくひんがあることを知りました。その魚はシャチほことよばれ、インドと中国の文化の下でけいせいされた、魚のかたちをしたかくうの生きものです。ちょうぞうやさむらいについて多くのことを学び、とてもきょうみぶかいとかんじました。

横浜市中区の公立中学校に体験入学するための準備をしました。

準備 その1 一緒に登下校する仲間を確認！



中学校の通学経路を確認中

- 体験入学では、5つの中学校に6～8名ずつ分かれて体験入学でお世話になります。同じ中学校に行くメンバーを確認しました。
- 話し合いを通じて、各グループでリーダーとサブリーダーを決めました。

準備 その2 日本の中学校のルールを知る！



日本の中学校のルールについて確認

- 日本の中学校のルールについて学びました。
- 自分の国の学校とどんなところが違うのか、また、どうしてこのようなルールがあるのかなど考えました。



中学校の上履に靴ひもを通します

- 日本の部活について学びました。

準備 その3 自己紹介プレゼンテーションを予行練習！



自己紹介の練習

- 中学校では、パソコンや自作の資料を使って自己紹介をする時間をいただいています。本番に備えて、研修の仲間たちの前で一人ひとり予行練習を行いました。

- 仲間のことをよく知る機会になったと同時に、他の研修員の発表を見ることで、自分のプレゼンテーションに足りない点にも気づくことができました。少し手直しを加え、中学校での本番に臨みます。



- 学校によっては、グループ全体で約30分間、各国の紹介を行う時間が設けられていました。そのため、研修員たちが各国を紹介するスライドショーを準備しました。自分の国について紹介する機会をいただいたことは研修員にとっても大変貴重な経験になったようです。



各国紹介の準備



ヒューマンビンゴ

JICA「日系社会リーダー育成事業」および日本財団「日系スカラーシップ」の留学生6名を講師としてお迎えしました。授業では、日本での留学プログラムの紹介や各氏の留学経験について講話いただいたほか、日系人の先輩としての立場から、アクティビティやワークショップを実施いただきました。

日系人向け留学プログラムの紹介は、研修員が日本で学ぶ姿を具体的にイメージする貴重な機会となりました。特に、同じルーツを持つ講師が体験談を母語で語ったことで、研修員は「身近なロールモデル」として深く共感し、日本に対する理解をいっそう深めることができました。また、工夫を凝らしたアイスブレイクにより世代を超えて質問しやすい雰囲気醸成され、活発な意見交換が行われました。

授業後には、研修員から「日本で勉強するという夢ができた」「将来の進学に向けたモチベーションになった」といった、進路に対する前向きな決意や、日本語学習継続への強い意欲が示されました。本授業は、研修員にとって帰国後の進路を考える指針となっただけでなく、日本での進学に対する関心を高め、日系社会の次世代リーダーとしての自覚を促す有意義な機会となりました。



グループワーク



研修員と留学生の意見交換



研修員と留学生の集合写真

研修員の振り返りから

- ◇ 今日はほかのけんしゅうのことをおぼえました。このけんしゅうをやってみたくて思っています。たぶんこうこうがおわったら、日本にりゅうがくをしに行きます。
- ◇ 今日のだいがくせいプレゼンテーションがとてものしかった。そしてしょうがくきんとともきょうみがありました。
- ◇ 今日は日本で学ぶの授業で今日本で留学している学生が将来の事にやくだつ物とかを教えてくださいました。私はまだ何をすれば良いか分からないので、これからもちゃんと考えたいです。
- ◇ いくつかのりゅうがくや日本でのけいけんについて話してくれました。ビンゴをしたり、グループ活動もしました。また、家族がどの県から来たのかについてしらべるかだいましました。
- ◇ 日系人の大学生の人たちが日本の生活について話しました。日本の留学について話したのもっとあとに役立つかもしれません。

研修旅行事前学習

1月19日(月)

研修旅行で訪れる予定の京都の金閣寺、清水寺、伏見稲荷大社、神戸の震災メモリアルパーク、神奈川県の小田原城、鎌倉大仏について、グループに分かれて調べ学習を行いました。研修旅行に向けた事前学習の時間を活用し、所外研修の訪問先についてもあわせて調べました。

事前学習では、建てられた理由や建設年、建てた人物などのテーマを分担しながら、グループで協力して調べを進めました。

また、研修旅行当日には、事前に調べ学習を行ったグループがガイド役となり、訪問先や移動のバスの中で紹介を行いました。

調べた内容を実際の見学と結び付けることで、より深い理解と学びにつながる機会となりました。



調べ学習の発表

1日目 神戸・京都 海外移住と文化の 交流センター見学 京都伏見稲荷大社

待ち望んでいた研修旅行がスタートしました！新幹線に乗る前に、「右側に乗ったら富士山がよく見えます。右側に座ります」と言って、車窓から富士山が見えることを楽しみにしている研修員もいました。当日は

富士山がはっきりと姿を現し、研修員たちは大喜びでその景色を堪能していました。移動は3時間ほど、駅弁を食べたり、おしゃべりを楽しんだり、カードゲームをしたり、あっという間に神戸に到着しました。



新幹線から富士山の観察



説明ボランティアの話を聞く研修員

新神戸駅からバスで移動し、海外移住と文化の交流センターを見学しました。この施設は、かつて「国立移民収容所」として使用されており、南米に移住する人々が出発前の準備のために実際に宿泊していた場所です。建物内には移住資料館があり、ガイドの方から説明を聞いたあと、移住に関するワークシートにも取り組みました。展示の主はブラジルへの移住に関する展示が中心でしたが、船内を模して造られているということや、実際に移住する前に利用されていた施設ということを知り、驚きや関心を示す研修員が多く見られました。



ワークシートに取り組む研修員

続いて、かつて移住者たちが歩いた「移住坂」を歩いて、神戸港まで歩きました。港に向かって歩きながら、当時の人々がどのような思いでここを通ったのかに

思いをはせる時間となりました。

その後、メリケンパークにある神戸港震災メモリアルパークを訪れ、阪神淡路大震災について学びました。ここでも調べ学習を行っていたグループのガイドなどを通じ、熱心にメモを取る姿が見られました。



移住坂をくぐる研修員

また、「希望の船出」の銅像の前で記念写真を撮影し、移住の歴史についてそれぞれがさまざまな思いを抱いた一日となりました。研修員の中には、家族が移住した当時に撮影した写真を持っており、同じポーズで写真を撮りたいと話す者もいました。先祖と同じ場所に立てた喜びを口にする姿も印象的でした。

その後、京都伏見稲荷大社を訪れました。折からの大寒波の影響で雪が舞い、初めて目にする雪景色に研修員たちは歓喜していました。到着時には辺りは暗くなっていましたが、夜の伏見稲荷は映像で見る華やかなとは違い、静寂で厳かな雰囲気に含まれていました。研修員たちは、その美しさに感動しつつも「次回は昼にきてみたい」と再訪を誓っていました。



「希望の船出」像の前で集合写真



京都伏見稲荷大で集合写真



京都の旅館で集合写真

2日目 京都 金閣寺 清水寺

京都ではビジネス旅館に宿泊し、初めての旅館での滞在や畳での生活を体験しました。二日目には金閣寺と清水寺を訪問しました。前日からの雪がうっすらと積もり、雪化粧の景観を目にした研修員たちからは歓声が上がりました。多くの研修員にとって雪は自国ではなかなか見ることができないものであり、貴重な経験となったよ

うです。

見学の際には、事前学習で学んだポイントを意識しながら観察する様子が見られました。金閣寺では屋根の上の鳳凰について、清水寺では清水の舞台や音羽の滝について触れる発言もあり、互いに事前に調べた内容を確認し合う場面もありました。研修員の主体的に学ぼうとする姿勢が印象的でした。

また、事前学習の成果として、「銀閣寺という寺院もあるんだ」「二条城には行かないんですか？」といった声も聞かれ、訪問予定地以外の歴史的建造物にも関心を広げている様子が見られました。事前学習が単なる知識の確認にとどまらず、興味・関心の広がりにつながっていることが感じられました。

限られた時間ではありましたが、調べ学習、現地訪問、そして発表といった一連の活動を通して、学んだ知識を実際に見て確かめ、感じたことを言葉で伝える貴重な経験を重ねることができました。今回の事前学習は、研修旅行での学びを深めるうえで大切な取り組みとなりました。



参拝の様子



清水寺 音羽の滝体験



清水寺の入口にて

研修員の振り返りから

1日目

- ◇ 今日は移住センターとふしみいなりたいしゃに行きました。移住のじゅぎょうはたいけん的なじゅぎょうでしたから、とてもいいでした。
- ◇ 今日はこうべいじゅうセンターへ行っていろんなことをおぼえました。たとえば、むかしは人とたちはしゃしんをみてけっこんをしていた。
- ◇ 今日、おばあちゃんがあるいた道もあるくのがかんどうしました。
- ◇ 今日、移住ミュージアムでブラジルへの移住についてたくさんことを学びました。もし私が移住するとしたら、ブラジルの生活になれるかどうか分からないことが不安になる。
- ◇ なれないとちについてちょうきかんはたらくのはたいへんだったとおもいます。しかし、かねもちになってかえるというきぼうは大きかったです。まいごになったきぶんになります。かれらは、かれらをするひとびとになつかしいおもいでだけでなく、かれらのしゅっしんちのすばらしいぶんかものこしました。
- ◇ 船の中はどんなのかを知れてうれしかったです。しせつが船になれるためにたかさをちょうせいしていました。
- ◇ 神戸のみなどに行きました。その道をとおり「ごせんぞたちはここにおったんだ」と思いました。
- ◇ 海外移住と文化の交流センターで移住のれきしについてよく学びました。ふねの中の生活やじゅんびのことなどの大切なじょうほうのせつめいをうけました。
- ◇ じんじゃへ行く時、ゆきがふりました！とてもきれいでした！ブラジルでぜんぜんゆきがふりませんから、すごくすばらしかったです。

2日目

- ◇ 今日 きんかくじと清水寺に行きました。そこでとてもきれいなふうけいがありました。れきしてきなたてものを見ることができて、うれしかったです。日本の文化をまなびました。
- ◇ 京都の町はとてもでんとうてきな町だと思いました。今日、きんかくじときよ水寺へ行って日本の文化のきれいさにきづいた。私は日本の文化とつながっていることができて感しゃしています。
- ◇ きよみずでらはとても大きくてきれいです。そして、しぜんがとてもゆたかです。じぶんが小さいとかんじましたが、こんなにつくしいばしょをおとずれることができてしんじられないきもちでした。
- ◇ 金閣寺に行きました。とてもきれいでした。なきたくなりました。日本でいちばん行きたかったばしょです。
- ◇ 今日は金閣寺と清水寺に行きました。金閣寺は行く前に班のメンバーと一緒に調べたから、色んなことを知って行く楽しさに気づきました。2年前に行ったことがあったけれど、調べてなかったなので、いぜん行った時よりもとっても楽しかったです。
- ◇ 先生が「20kgの金があるよ」と言いすごくびっくりしました。けしきがきれいでした。今まで見てきたけしきの中で一番きれいでした。
- ◇ 金閣寺はすごく神々しくて、「あの金、ぜんぶ売ったらいくらになるんだろう」と思いました。
- ◇ 今日は、金閣寺に行きました。金閣寺のおもしろいことを研修生におしえました。研修の前にぼくのゆめは金閣寺に行きたことでした。ゆめがかないました。

中学校訪問・体験入学

横浜市内の公立中学校において、中学校訪問および体験入学プログラムを実施しました。まず、昨年度に引き続き、横浜市南区の横浜市立南中学校を訪問し、研修員全員で学校見学や部活動体験を行いました。

その後、別日に横浜市中区内の公立中学校において、3日間の体験入学を実施しました。本体験入学プログラムの実施にあたり、事前に中区校長会を通じて協力を依頼し、横浜市立大鳥中学校、横浜市立仲尾台中学校、横浜市立本牧中学校、横浜市立港中学校、横浜市立横浜吉田中学校 の5校にご協力いただきました。

中学校訪問・部活動体験

2026年1月22日(木)



全員で南中学校へ登校中

前年度に引き続き、横浜市立南中学校を訪問し、学校交流および部活動体験プログラムを実施しました。研修員全員が同校を訪れ、中学1年生・2年生の各クラスにて授業を体験させていただきました。

当日は学校を挙げて温かく迎えていただき、各研修員には手作りの名札もご用意くださいました。待機室へ各クラスの代表生徒が迎えに来た際、日本の中学校を初めて訪れる研修員たちは、期待と緊張が入り混じった表情を見せていました。

その後、研修員は各クラスに分かれて授業に参加しました。当初は緊張による硬さも見られましたが、生徒たちの温かい歓迎を受け、次第にリラックスして交流に臨むことができました。各クラスでは、事前学習の成果として準備してきたプレゼンテーションを行い、自国の紹介や日系社会の現状について日本語で発表しました。

授業後には全員が希望する部活動に参加しました。同世代の生徒たちと活動を共にしたことは、日本独自の中学校文化を肌で感じる機会となり、研修全体の中でも特に印象深い貴重な経験となりました。



事前学習の発表

授業後には全員で部活動体験を行い、それぞれが希望する部活動に参加しました。同世代の生徒たちとともに活動を共有できたことは、日本の中学校ならではの文化を体感する機会となり、研修員にとって研修全体の中でも特に印象に残る貴重な経験となりました。



南中学校待機室での様子



南中学校 クラスにて



部活動体験



中学校事前挨拶

2026年1月23日(金)

体験入学に先立ち、中区内の5つの受け入れ中学校へ、研修員がグループに分かれて事前の挨拶に行きました。初めはやや緊張した様子も見られましたが、すでに南中学校を訪問した経験もあり、落ち着いた様子で各校へ向かうことができました。

各中学校では、担当の先生方から授業の内容や部活動について丁寧に説明していただきました。また、学校までの道順や、バスや電車など公共交通機関の利用方法についても学ぶことができました。

こうした事前訪問を通して、体験入学に向けた準備を整えることができました。

中学校体験入学

2026年1月27日(火)～29日(木)

横浜市中区内の公立中学校5校において、3日間の中学校体験入学を実施しました。本プログラムの実施にあたり、事前に中区校長会を通じて協力を依頼し、横浜市立大鳥中学校、横浜市立仲尾台中学校、横浜市立本牧中学校、横浜市立港中学校、横浜市立横浜吉田中学校の5校に受け入れていただきました。

大鳥中学校

仲尾台中学校

本牧中学校



港中学校



横浜吉田中学校

南中学校訪問では複数の研修員と一緒にクラスに入ることができましたが、中区5校での体験入学では、多くの研修員が一人でクラスに入る形となりました。そのため、「一人でクラスにはいるのが不安だった」「日本の中学生とうまく日本語で話すことができなかった」「友達になるのが難しかった」といった戸惑いや不安の声も聞かれました。特に初日は、思うように交流できなかったと感じる研修員も見られました。

しかし、2日目以降は学校生活に徐々に慣れ、「日本語で授業を受けるのは難しかったが友達ができた」「前日より多くの人と話すことができた」など、前向きな変化も見られるようになりました。

また、ある中学校では、クラスでの自己紹介に加えて参加者 5 か国の国紹介を行う時間を約 30 分設けていただきました。研修期間中のあいた時間を利用して、学校へ行くグループでプレゼンテーションを準備し、日本の中学生生徒の前で発表する機会を得ました。研修員からは、「緊張したけれど頑張って発表できた」「日本語で話すことは大変だったが、うまく伝えることができた」といった感想が聞かれ、大きな達成感と自信につながった様子が見られました。



生徒たちの前で自国紹介をする研修員

研修員の振り返りから

- ◇ 2-2 年のクラスに行き、初めにちょっとはずかしかったけどどんどん友達作った。その後ぶかつをやりました。けんどうはむずかしいけど、おもしろいです。友達と中学生といっしょにぶかつをすることはたのしかった。よかったです。
- ◇ ブラジルの学校と日本の学校はちがうところがたくさんあります。日本の中学校のじゅぎょうのじゅぎょうはブラジルのとはちがっています。じゅぎょうではラジオを作りました。中学生たちはやさしかったので中学校でもっとあしんすることができました。
- ◇ みんなはともしんせつです。でも、日本語がじょうずにはなせないのがもうしわけないです。もっとたのしめたかもしれないのに。学校のおんなのこたちが私にしんぼうづよくせつしてくれてよかったです。
- ◇ えいごのクラスがありました。とてもかんたんでした。ぜんぶわかりました。うれしくなりました。
- ◇ 仲尾台中学校はとても楽しかったけど、日本語の言葉はむずかしかった。たくさんの友達を作りました。日本語で話すようにがんばりました
- ◇ 学校に着いた時、きんちょうしたけどすぐにその気持ちが出ました。私のクラスメイトはとてもおもしろくて、やさしくて、たくさん遊びました。じゅぎょうの時、ほとんどのことが分かりましたけど、返事をするのはむずかしいです。昼ごはんの時、たくさん食べてサッカーを遊びました。今日は日本語をたくさん話すのが楽しかった。
- ◇ 日本の学校とブラジルの学校は色んなちがうところがありました。たとえば、ユニフォームやかもくや先生の行動や学生などがちがいました。中学校には、たいへんなことがあったけどいっしょうけんめいがんばりました。
- ◇ 最初は体育館に行って自己紹介をしました。学校みんなの前で話して、ちょっときんちょうしたけど、良くできて嬉しかったです。
- ◇ 最初にきんちょうしても、友達をたくさん作りました。英語クラスで自己紹介をしましたから、うれしかったです。英語のほうはかんたんだと思います。明日も学校があるから幸せな気持ちを持っています。
- ◇ 朝学校に行くまえにきんちょうしました。せきのとなりの人が面白い人だったので、仲良くなれました。
- ◇ 授業はすこし難しかったけど新しい事をおぼえました。技術は初めてだった。日本ののこぎりは引くときに切れる事がわかりました。
- ◇ さいごのじゅぎょうは生徒たちのはっぴょうとゲームと先生たちのわかれのことでした。先生はポルトガル語で話しました。びっくりしました。そのあとは生徒からてがみがありました。みんな、また会いたいと思います。わかれはかなしかったです。
- ◇ この三日間はみなさんたちはとてもやさしくて、あたたかくて、たくさん話をかけてくれました。たくさんを学んだ、よかったです。この経験はけっしてわすれない。またみなさんに会いたいです。きかいあったら、もう一度会いたい。今日の授業は一生懸命がんばりました。メモを書いて、授業に集中しました。
- ◇ じゅぎょうで友達と一緒にたくさん笑いました。よかったです。仲尾台中学校、ありがとうございます！！

ホームステイ

2026年1月24日(土)~25日(日)

研修員が最も期待を寄せていたプログラムの一つである、1泊2日のホームステイを実施しました。短い滞在ではありましたが、研修員が少しでも日本の暮らしを体験できるよう、ホストファミリーの皆さまには外出や日本文化の体験、夕食づくりのお手伝い、日本の布団で寝る体験など、さまざまな工夫と温かいご配慮をいただきました。

ホストファミリーの皆さまとお会いする前は、研修員たちも非常に緊張した面持ちを見せていました。「日本語があまりできないけれど大丈夫だろうか」「1泊2日を日本語だけで過ごすのは不安だ」といった心配の声も聞かれました。しかし、実際の滞在が始まると、日本語に不安を抱えていた研修員も積極的にホストファミリーと交流していた様子が、後日寄せられた双方の感想からうかがえました。

ホストファミリーからは、「一生懸命日本語でコミュニケーションを取ろうとしてくれてうれしかった」「すべて日本語で伝えようと努力していた」といった声が寄せられました。研修員同士で過ごす場面では見られない一面が発揮されていたことも、大きな成果の一つといえるでしょう。

このような温かい受け入れのおかげで、研修員たちは日本の家庭のぬくもりに触れながら、思い出に残る2日間を過ごすことができました。心から歓迎してくださったホストファミリーの皆さまに、深く感謝申し上げます。



ファミリーヒストリーをきいてもらいました ～ わたしの中の日本 ～

本研修への参加にあたり、研修員は事前学習として、自身の家族の移住の歴史について家族にインタビューを行ったほか、身の回りにある「日本」を探る活動に取り組んでから来日しました。ホームステイでは、その際にまとめたプレゼンテーション資料を見せながら、調べた内容をホストファミリーに紹介し、自己紹介を行いました。



事前課題 プレゼンテーション

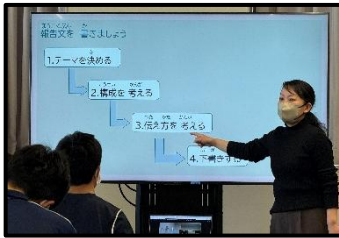
ファミリーヒストリーを知って

- ◇ 家族のこと、ブラジルのことをたくさん話してくれた。
- ◇ プレゼンテーションから、移民の歴史も少し垣間見れて本当に有意義でした。
- ◇ 自己紹介と移民学習のプレゼンテーションをしてくれたので、パラグアイのことを知れて良かったし、勉強になりました。
- ◇ どんな人達がどんな理由で海外へ渡り、どんな思いで現地での暮らしを作り、日本の記憶、文化を繋いでいっているのか、とても興味が湧きました。



研修員の振り返りから

- ◇ ホームステイはたのしかったです。日本語をいっぱいはなせた。またホームステイやりたいと思っています。
- ◇ 24日はホームステイの人たちにあって、サンパウロと日本のちがいをしゃべりました。みんなすごくやさしくてよかった。
- ◇ 私の日本語があまり上手ではないので、さいしょはすごくきんちょうしましたが、子どもたちがとても親切でりかいのある子だったので、だいぶ安心しました。そして、たくさん日本語で話すことができました。たいへんだったけど。
- ◇ ホームステイでこんなにうまくやっていると聞いていませんでした。でも、たくさんたのしかったです。おとうさんとおかあさんはとてもやさしいです。かれらは私のいうことをかんべきにりかいしてくれました。プレゼンテーションはとてもいいです。かれらはともしあわせでした。たくさんたべて、たくさんはなして、リラックスしました。
- ◇ わかれをつけるのはとてもかなしかったです。いつかまたかれらに会えると信じています。
- ◇ とてもいいいけんで、ぜったいにわすれません。日本でのせいかつをすることができて本当に楽しかったです。
- ◇ とてもたのしかった！私はホストファミリーにたいへんかんしゃしております。またお会いできることをねがっております。
- ◇ きのと今日、ホームステイがありました。まず、とてもきんちょうしていたけど、時間がたつ、きんちょうなくなりました。ホームステイの家族はとてもやさしくて、親切です。いい思い出がたくさんできたり、日本語でよくしゃべったり、もっとわらいました。このけいけんは私にとってとてもとくべつなものであり、いつかまたホームステイの家族に会いたい。
- ◇ とてもよいいけんでした。家についたとき、わたしたちはラーメンをつくったり、かれらのにちじょうせいかつについてすこしはなしてくれました。



報告書の作成

約 3 週間にわたる日本での研修を振り返り、研修員はそれぞれ最も印象に残った出来事について作文を書きました。これが研修員一人ひとりの研修報告書となります。

研修期間中は、每晚「夜ミーティング」を実施し、その日に学んだことや気づいたこと、覚えた日本語などを「ふりかえりシート」に記録しました。夜ミーティングは本研修の重要な活動の一つであり、その日の学びや思いを文章にまとめ、アウトプットする機会として位置づけています。

ふりかえりシートの作成にあたっては、自分の思いをすべて日本語で表現することが難しい場合もあるため、自由に記述できるよう、スペイン語やポルトガル語を併記することも可能としています。ただし、研修員全員が現地の日本語学校で学んでいることから、日本語で書くことも重要なポイントとしています。



夜ミーティング 振り返りシートの作成

国語の授業では、作文用紙の使い方や文章の構成、タイトルの付け方などを学びました。こうした学びを踏まえ、研修員は作文の作成に取り組み

ました。作成にあたっては、日々記録してきた「ふりかえりシート」を読み返しながらか研修を振り返り、感じたことや思いを整理して文章にまとめました。研修員は作文の作成に取り組みました。慣れない日本語で作文を書くことは研修員にとって大きな挑戦でしたが、日々の振り返りを通して得た気づきを言葉にし、文章として残すことは、大変意義のある学びの機会となりました。



報告書の作成

研修員の振り返りから

- ◇ 金よう日は、けんしゅうのさくぶんをかきました。いっぱいかけなかったのが、何を書こうか考えるのに少し時間がかかりました。それでもよくかいたと思います。
- ◇ 作文にこのけんしゅうを学んだこと、友達を作ること、場所に行くことを全部をはんえいしました。私の作文に、成長するために、ブラジルのいい点か日本のいい点を考えました。最後に、けんしゅうももうすぐおわるから、さびしくなりましたが、このたいげんにさんかすることができ、かんしゃしています。
- ◇ 今日、私のきもちをつたえられるためがんばって作文を書きました。作文をおわった時に、すぐつかれていました。みんなも作文を書くためがんばりました。
- ◇ 自分自身について多くのことを学び、また、日本では組織力と他者へのおもいやりが非常に大切であることを学びました。なによりも、たくさんのともだちができて、日本語も上達しました。
- ◇ とてもよいしゅんかんとわるいしゅんかんをいくつかおもいだしました。じぶんのきもちについてたくさんかきました。それがよいぶんしょうをうみだすのだとおもいます。JICA にすべてかんしゃしています。
- ◇ この研修でたくさんのことを学び、たくさんの友情が生まれて、たくさんの思い出を作りました。作文を作ってから思ったことは、私は日本のことをもっと知り、たくさんの友達、そして自分自身も色々成長したと思います。

研修修了前日(アンケート、報告会準備) 2026年2月3日(月)

研修修了が間近に迫り、研修員たちは報告会に向けてプレゼンテーションの準備を行いました。発表テーマはグループごとに話し合っただけ、これまでの活動の中から各グループが2つのアクティビティを選び、発表資料を作成しました。さらに、各グループの発表後には、1分間の研修の振り返りスピーチも行う予定です。

また、帰国に向けたオリエンテーションやアンケートの記入も行き、帰国が間近に迫る中で、研修員たちは期待と寂しさが入り混じった複雑な気持ちで過ごしていました。

帰国当日のチェックアウト方法や集合時間、ホテル出発時刻について全員で確認し、預け入れ荷物や手荷物のルールについても再確認しました。授業終了後には、部屋の片づけやパッキングを行い、チェックアウトの準備を進めました。日頃から整理整頓を心がけていたため、帰国に向けた準備もスムーズに進みました。

報告会、閉講式、送別会

2026年2月4日(水)

研修員報告会

報告会では、研修生活を共にしたグループごとに活動を二つ選び、それぞれの内容について発表を行いました。また、日本語による1分間スピーチの時間も設け、「研修に来てから思ったこと・感じたこと・考えたこと」「研修が終わってからやりたいこと」「未来への約束、5年後の自分について」などをテーマに発表する機会としました。参加者は、自らの思いやこの研修での学びを積極的に共有し、日本語で発表することができました。日本での経験は彼らにとって大きな刺激となり、「また日本に来たい」「将来は日本語の先生になりたい」「日本の大学に留学したい」といった具体的な目標につながる様子もうかがえました。



研修報告会 グループ発表



閉講式

閉講式では、JICA 中南米部の青木一誠次長よりご挨拶をいただきました。その中で、本研修のこれまでの歴史や、これまで多くの修了生が日系社会で活躍していることが紹介されるとともに、研修員が今後、日系社会と日本をつなぐ架け橋となることへの期待が伝えられました。



修了証書授与



亀井校長先生のご挨拶

続いて、中学校体験入学でお世話になった学校を代表して、横浜市立横浜吉田中学校の亀井孝洋校長先生よりご挨拶をいただきました。当日は、お世話になった中区5校の校長先生方や担任の先生方、また南区の南中学校の先生方にもご出席いただきました。

学校でお会いしたときには緊張してなかなか話すことができなかった研

修員たちですが、改めて先生方と再会すると、研修員の顔には満面の笑みが広がりました。中学校体験入学が研修員にとって大切な思い出となったことが、その表情からもよく伝わってきました。

その後、研修員一人ひとりの名前が呼ばれ、修了証書が授与されました。閉講式の最後には、各国の代表として 5 名の研修員が登壇し、この研修を振り返ってスピーチを行いました。



閉講式 集合写真

研修員代表スピーチ

ボリビア代表

私たちはこの日はずっとこの日を楽しみにしておりました。日本の文化や技術を学ぶことに心から、こころからワクワクしました。このようなチャンスをいただき本当にありがとうございました。

アルゼンチン代表

私たちは、この研修でたくさん友達ができたり、その友達との絆を深めたり、いい思い出がよくなりました。みんなは他の所から来ましたが、36人の研修生は、この24日間で大きな家族を形成することができました。チャレンジでもあって、間違いも犯しました。でも、私たちはいつも一緒にそのことから学びました。私たちは、JICAで文化の多様性と尊重の場所を見つけました。私たちは出身国は違いますが、同じことを一つあります。そのことは、私たちは日系人です。日系人であることは難しいです。私はアルゼンチン人ですが、アルゼンチンにも見えません。そして、日本では外国人。どこにも100%属していません。しかし、この研修で同じ気持ちの人たちがいるので、もう孤独を感じなくなりました。

ペルー代表

ホームステイのような活動はとても驚きにみちたものでした。最初は、そこまで自分に影響を与えたり、心に強く残ったりするとは思っていませんでした。出会ってまもなくにもかかわらず、受け入れてくださったご家族の価値観や習慣、そして人から、わたしたちがいっしょに過ごした時間の中で感じた安心感や居心地のよさをあらわしていました。滞在期間は短かったですが、とても充実した時間を過ごすことができ、新しい文化を学び、決して忘れることのない多くの学びを得ました。文化の違いなどはありましたが、それでも家にいるように感じる事ができ、それはひとつひとつのご家庭の努力のあらわれだと思います。間違いなく、これは人生の中でも最高の経験の一つでした。

ブラジル代表

この研修の目標は研修生たちを交流させることと、自分の家族のルーツを知ることです。水上先生の授業と神戸への研修旅行では、移住博物館で移住のことを勉強しました。船のルートや、どのようにして私たちの御先祖たちが南アメリカまで来たかを学びました。この経験のおかげで、なぜ私たちは南アメリカにいるのかを知ることができました。

パラグアイ代表

私たちはこの研修を通して色々なことを学びました。時間を守る大切さ、目上の人への接し方、新しい事への挑戦。一つ一つに耳を傾け、観察し、日本の文化の事を知りました。僕がこの研修を最後まで楽しめたのはたくさんの事を一緒に学んだ研修生たちのおかげです。私たちは明日でもう、お別れです。それぞれ別の道を歩むことになります。ですがこの研修で作った思い出、友達、友情はいつまでも消えませんが、私たちは別の道を歩むことになってもいつかそのたくさんの道を結びつける一本の道があるはずで。

いつか絶対にもたどこかで会えることを楽しみにしています。最後に、やっていいこととやってはいけないことを優しく注意してくださった平居先生、いつも真面目に僕達の問題と向き合ってくくださった小田先生、そして僕達の面倒を三週間休みなく見てくださった、みか先生、ミナエ先生、カイト先生、ありがとうございました。そしてこんなにも楽しくて、いろんなことを学べる研修を用意してくださったJICA関係者の皆さん、本当にありがとうございました。



各国の代表者のスピーチ

送別会



【僕らまた】の合唱

は『僕らまた』を合唱しました。みんなで練習を重ねてきた一曲で、歌の途中では各中学校の皆さまへ向けたメッセージも伝えました。「この曲を聞いたら研修のことを思い出すんだろうな」「また会えたときに、この歌と一緒に歌えるかな」。そんな思いを口にする研修員の姿から、この研修がかけがえのない経験となったことがうかがえました。

日本、そして研修で出会った仲間と離れることに寂しさを感じながらも、研修員たちは帰国を待つ家族のもとへ無事に戻ること、そしてこの研修で学んだことを自国の人々に伝えていくという思いを胸に、研修の締めくくりとなる閉講パーティに臨みました。

パーティでは、JICA 横浜センターの大野所長よりご挨拶をいただき、研修の最後にふさわしい温かいひとときとなりました。

閉講式後には、弊会専務理事の椿秀洋より乾杯のご挨拶をいただきました。中学校の先生方、JICA の職員の皆さま、研修員、そして弊会職員が一堂に会し、研修の無事の修了を祝いました。

また、お世話になった先生方をはじめ、本研修に関わってくださったすべての方への感謝の気持ちを込めて、研修員たち



JICA 横浜 大野所長のご挨拶

大鳥中学校



仲尾台中学校



本牧中学校



港中学校



横浜吉田中学校



南中学校

24 日間にわたり研修を支えてくださったすべての皆さまに、心より感謝申し上げます。誠にありがとうございました。

帰国

2026年2月5日(木)

本研修で出会った36人の研修員は、24日間の研修生活を通して、国や地域、言語の違いを越えて互いに理解し合い、強い絆を育んできました。その経験と学びを胸に、それぞれの国へと帰っていきます。彼らがこれから日系社会の中でどのように活躍していくのか、今後の歩みがとても楽しみです。



5. 引率者の所感

橋元 美苗(ブラジル/ビリチーバミリン日本語学校)

菊池 魁人(パラグアイ/エンカルナシオン日本人会青年部)

兼島 ミカ アレクサンドラ(アルゼンチン/ブエノスアイレス日亜学院)

1月13日の夜、JICA 横浜のオリエンテーションルーム「かもめ」に長時間フライトで疲れ切った36名の研修員が揃いました。その時、私たち引率者のうちの誰がこれからどんな経験をし、こんなに深い絆で結ばれるような素晴らしい仲間ができることを想像できたでしょうか。

5か国36名の研修員は、学習時にはそれぞれがユニークな名前をつけた6グループ、中学校体験入学時には学校別の5グループ、研修旅行での部屋割りには7グループに分かれ、いつも違ったメンバーになるように組まれていました。同じ国同士で仲良くなりがちですが、このグループ編成のおかげで、いろいろな研修員がつながるきっかけになりました。始めは言語能力、生活リズム、食習慣、性格の違いに戸惑いながらも、お互い助け合い、協力し合い、一人ひとりが持つ強みを活かしながら、だんだんいいチームになっていったと思います。

プログラム全体では、1週目に研修員個人の目標を設定し、全体で移住学習をし、このプログラムの意味を考えさせてから、2週目からの研修旅行、中学校訪問、ホームステイ、中学校体験入学、所外研修に繋がっていきます。すべての活動に事前学習が行われ、グループワーク、クイズ、映像、紙芝居、宝探しなど、楽しく興味を持って学べたことで、より充実した研修活動になりました。

中でも強調したいことは、移住学習での研修員の変化です。研修員たちは、それぞれ自分の家族が移住した船の名前や航路図、インタビュー内容を発表しました。その時、自分の家族と他国の研修員の家族が似ていることに気づき、学習を深める中で、日本や南米全体の移住の歴史について考え始めたようです。その後、JICA 横浜内にある海外移住資料館で目を輝かせて調べている様子がとても印象的でした。また次の週に行った神戸の海外移住と文化の交流センターは、実際に多くの移住者を送り出した国立移民収容所として使われた場所で、たくさんのお話を聞き、ワークシートでの学習をしました。外に出たとたん雪が降り始め、初めて見る雪に大興奮の研修員たちと港へと続く移住坂を下りながら、それぞれひいおじいさんやおばあさんへの思いを馳せる様子もとても心に残りました。

その他、毎日の振り返りシートには、研修員の小さな気づきや反省、楽しかったことや失敗したことが書かれ、研修員一人ひとりの性格が顕著に表れます。流暢な日本語のシート、イラストやユーモア満載なシート、母語が混じったシート、事実を淡々と書くシートなどがありました。それらを毎日読んでみると、日々の経験を心に刻んでおきたいという研修員の気持ちが日に日に強く表れていることに気づき、それぞれの成長を強く感じました。

閉講式で歌った「ぼくらまた」の歌詞にあるように、いつかまた夜が明けるまで語り明かす日がくるのを楽しみに、それぞれの道でこの経験から得た学びを深め、将来の日本と母国を結ぶ懸け橋になってほしいです。

最後になりますが、大きな問題もなく、気持ちよく研修を終えることができたのは、研修員、JICA の皆様や担当の方々とのチームワークと思いやりがあったからだと思います。私たち引率者も、こまめにコミュニケーションをとり、事前に役割を決め、よりよい環境を作ろうと心がけてきました。

JICA の皆様、担当の方々、素晴らしい経験をさせていただき、ありがとうございました。

6. 総評

明治元年(1868年)、サトウキビプランテーションの労働者としてハワイへ渡ったことから始まる日本人の海外移住は約150年の歴史を有しています。その間、米大陸各国、各地域の日系社会では日本語学校を中心にコミュニティを形成し、今日まで継続してきています。しかしながら、世代が進むにつれ、日本語学校に通う日系子弟の減少、日系コミュニティへの帰属意識の低下や日系アイデンティティの希薄化といった問題が顕在化し、日本とのつながりが弱まりつつあるのが現状です。

こうした状況に鑑み、本研修は、次世代の日系社会を担う人材育成の一環として、「日本人の海外移住の歴史に関する学習、その他各種研修を通じて自分たちのルーツや日本文化、習慣等への理解を深めることにより、自らの日系人としてのアイデンティティを強化すること」を目的としています。

研修員たちは東京、神奈川、関西での多角的なフィールドワークを通じ、自身の家族の歩みと日本の歴史を重ね合わせ、祖先への敬意や移住者の当時の思いに触れました。

中学校での体験入学では同世代の日本人と交流し、ホームステイでは日本の暮らしを肌で感じました。こうした経験を通じて、日本と自国、そして日本人とのつながりを意識することを企図した活動を実施しました。

また、日本での滞在や研修員同士の共同生活を通じて、自国や他国の日系社会と日本との違いや、それぞれの魅力を改めて知る機会にもなりました。参加者たちは、両国の日系社会の未来のために自分たちができることを考える時間を持つ機会になったことを期待します。ブラジル、ペルー、ボリビア、パラグアイ、アルゼンチンの5か国から集まった36名の研修員は、「日系」という共通点を持ちながらも、言語や文化、生活習慣など、それぞれ異なる背景をもつ日系コミュニティで育ってきました。研修を通して、互いに自分のことを伝え合い、違いを知り、理解を深める中で、コミュニケーションの大切さを学び合いました。

研修開始当初は、「友達ができるだろうか」「お互いの違う言語で理解し合えるだろうか」「日本語で生活できるだろうか」と、不安や緊張した様子も見られました。しかし、次第に日本語を共通語としながら、それぞれの言語も交えて交流を深め、日系人としての共通点や、それぞれが大切にしている価値観を共有しながら、研修員同士の絆を育んでいきました。研修を終えた研修員たちは、今後の目標についても多くの思いを語ってくれました。この研修で生まれた交流を大切にしながら、「学校の友人や家族に今回の体験を伝えたい」「プレゼンテーションをして日本での学びを国の仲間たちに共有したい」といった具体的な普及・還元への意欲が見られました。また、帰国後も日本語学習を続けたいという決意も多く聞かれ、「日本語能力試験 N1 に合格したい」「将来は日本へ留学したい」「日本へ移住したい」「両国の架け橋になりたい」といった将来への抱負も語られました。

この研修をきっかけに生まれた若い世代のつながりが、日系社会と日本、そして南米各国の日系社会を結ぶ新たな力として育っていくことを期待しています。研修員一人ひとりが、日系人としての強みと可能性を最大限に発揮し、南米と日本をつなぐ架け橋として活躍してくれることを心から願っています。

2025 年度

「日系社会次世代育成研修（中学生招へいプログラム）」

募集要項

2025 年 1 月



独立行政法人国際協力機構（J I C A）

目次

【研修の沿革および目的】	1
【研修員】	1
1. 対象国および受入計画数	1
2. 研修概要	1
3. 資格要件	2
4. 所要経費	3
5. 応募書類	3
6. 応募書類の提出締切と提出方法	6
7. 受入決定	6
8. 研修員の資格取り消し	6
9. 施設利用	6
10. その他	6
【引率者】	7
1. 引率者の招へい	7
2. 2025年度引率者選出国	7
3. 引率者資格要件	7
4. 所要経費	8
5. 応募書類	8
6. 応募書類の提出締切	10
【注意事項（研修員・引率者・ご家族の方）】	11
別紙1 研修員 応募書類様式	12
別紙2 引率者 応募書類様式	12
別紙3 研修員・引率者共通 応募書類様式	12

2025 年度

「日系社会次世代育成研修（中学生招へいプログラム）」

募集要項

【研修の沿革および目的】

本研修は、中南米地域等への移住者の定着・安定のために移住者子孫教育として 1987（昭和 62）年度に「日本語学校生徒研修」として開始し、2012（平成 24）年度からは、名称を「日系社会次世代育成研修」、2015（平成 27）年度からは「日系社会次世代育成研修（中学生招へいプログラム）」として実施しています。本研修では、海外の日本語学校に在籍する成績優秀かつ品行方正で将来の日系社会の発展に貢献するのに十分な素質のある日本語学校生徒が、日本人の海外移住の歴史に関する学習、中学校体験入学、ホームステイ、その他の各種研修を通じて、自分たちのルーツに対する理解と日本に対する理解を深め、さらに自らの日系人としてのアイデンティティを改めて意識することを目的としています。さらには、本研修が日系社会での日系継承語教育の振興を促し、日系社会の次代を担う人材の育成に寄与することを上位の目標としています。

【研修員】

1. 対象国および受入計画数

対象国：10 カ国

受入計画数：49 名（+引率者 5 名）

受入		対象国	人数
第 1 陣	5 カ国 13 名 (+引率者 2)	カナダ	4 名
		メキシコ	2 名
		ドミニカ共和国	5 名
		コロンビア	1 名
		ベネズエラ	1 名
第 2 陣	5 カ国 36 名 (+引率者 3)	ブラジル	20 名
		ペルー	4 名
		ボリビア	3 名
		パラグアイ	3 名
		アルゼンチン	6 名

2. 研修概要

	単元目標	研修内容（予定）
1.	日本人の海外移住の歴史の理解、また自分のルーツを学ぶことを通じて、日系人としてのアイデンティティを涵養する。	・ 海外移住資料館等の見学。 ・ 移住に関する講義、ワークショップ ・ 2泊3日の研修旅行。 ・ 各研修員のルーツを探る。

		・ 移住学習につながる事前課題等。
2.	日本の文化、習慣を学び日本に対する理解を深めることを通じて、日系人としてのアイデンティティを涵養する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日本理解に関する講義、ワークショップ、視察見学等。 ・ 中学校体験入学で日本の中学生との交流、中学校生活（授業、部活動等）の体験。 ・ ホームステイで日本の家庭生活を体験する。 ・ 2泊3日の研修旅行。 ・ 日系留学生や日系社会研修員との交流会。
3.	各研修員の役割分担、グループワークによる他国研修員との協力を通じた相互理解・自立促進。	・ 研修員同士の交流プログラム ・ 研修期間中全般を通じた班活動、等々
4.	各国日系社会での継承語教育の振興促進。将来の日系社会を担う人材を育成する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ プレゼンテーション方法の指導、実践。 ・ 研修員の作文作成、発表報告会。

【重要】実際の研修内容が上記から変更となる可能性があります。

(2) 研修期間（予定）：24日間

第1陣：2025年6月16日（月）から2025年7月9日（水）

第2陣：2026年1月13日（火）から2026年2月5日（木）

(3) 使用言語

日本語

（講義等で通訳が必要となる場合、1陣はスペイン語、2陣はスペイン語、ポルトガル語のいずれかの通訳を配置予定です。）

3. 資格要件

応募者は、次の要件をすべて満たしていなければなりません。

(1) 海外移住者及び概ね日系3世までの海外移住者の子孫（※）であること。

※日本人移住者の血統を引く者を指します。

※本事業対象国に定住していること（主たる生活基盤があること）。

(2) 研修参加時点での年齢が日本の中学生相当（12歳以上、15歳以下）であること。

(3) 現地の日系団体が運営する日本語学校に在籍し、成績優秀、品行方正かつ将来の日系社会の発展に貢献するのに十分な素質があると認められること。

(4) 自分のルーツや日本に対する理解を深める強い意志があること。

(5) 心身ともに健康であり、本邦での集団生活に耐えられること。

(6) 来日から帰国まで JICA 指定の全日程に参加できること。

(7) 親権者の同意が得られること。

※共同親権が法制化されている国においては、全親権者の同意が得られること。

4. 所要経費

規程に基づき次の経費を JICA が負担します。(ただし、渡航便は原則、JICA の指定する便での渡航とします。)

(1) 指定する経路の往復航空運賃(ただし、航空券の現物支給とし、現金の支給は行いません。航空券取得に必要な税金等、国際航空施設使用料も JICA が負担します。)

(2) 本邦国際空港と宿泊施設間の移動に係る経費

(3) 乗継のための第三国での宿泊に係る経費

※自国内移動の際に生じる宿泊に係る経費は自己負担です。

※6 時間未満の滞在は対象外です。

(4) 本邦滞在中及び乗継のための第三国滞在中生活費(食費)は、規定に応じて来日後に日本円で支給します。

※日をまたがない 6 時間以上の第三国滞在中は対象外です。

〈支給額〉

1) 本邦滞在中 生活費 2,200 円/日 ※朝食及び夕食費として

(ただし、現物支給されない日のみ現金支給とする。)

2) 第三国滞在中 生活費 4,000 円/日 ※朝食費、昼食費及び夕食費として

(4) 宿泊施設の利用料金

(5) 海外旅行保険料

原則として、居住国の国際空港を出発した時から帰国した日の国際空港到着時点までが保険対象期間です。

※本邦到着後、保険証(メディカルカード)を配付します。

研修中の傷病については保険が適用され、原則診療費の支払は生じません。

但し、既往症や歯科治療は保険適用外です。

〈留意事項〉

各国の国内線利用区間は保険対象外です。必要な場合は各自で加入してください。

(6) 所外研修、中学校体験入学、ホームステイ、研修旅行のために係る横浜での滞在先と訪問先との往復旅費

(7) 研修先に対する研修経費

5. 応募書類

応募書類は以下のとおりです。

- ・作成の際は、2025年研修初日時点の情報を記入してください。
- ・JICA様式を使用してください。

(1) JICA 様式

1) 推薦書

(様式第1号)

2) 身上書

(様式第2号)

- ・パソコン入力可。

- ・氏名（日本語）：

この書類に書かれた氏名表記（漢字・ひらがな・カタカナ）にしたがって、査証手続き書類を作成しますので、自筆の場合は読みやすい字で、**渡航時に使用する旅券に記載の表記どおりに**記入してください。漢字・ひらがな・カタカナのどの文字を用いるかについても、注意してください。

- ・氏名（アルファベット）：

この書類に書かれた氏名表記（アルファベット）にしたがって、航空券の予約の確認等を行います。自筆の場合は読みやすい字で、**渡航時に使用する旅券に記載の表記どおりに**記入してください。スペル、名字と名前の順番、ミドルネームの有無にも注意して記入してください。旅券と航空券の氏名表記が異なると、搭乗できなくなります。

※旅券をこれから申請する方は、**必ず旅券申請する氏名表記で記載**してください。
旅券と査証、航空券の氏名表記が異なると、渡航できなくなりますので注意してください。

- ・国籍：渡航に使用する旅券に記載されている国籍を記入してください。

※国によって短期滞在査証が免除となる場合があります。詳細についてはJICA事務所からの指示に従ってください。

3) 親権者の誓約・同意書

(様式第3号)

- ・サインは必ず親権者に書いてもらってください。

4) 病歴申告書

(様式第4号)

- ・パソコン入力可（署名は自筆）

・JICA様式による自己申告です。病歴申告書の記載内容によっては、医師の診断書の提出が必要になる場合があります。

- ・提出前に未回答項目や記入漏れがないか、確認してください。

・既往症、服薬中の薬、アレルギー等の持病も、必ず申告してください。

・現在治療を受けている疾患があれば、応募時に研修参加に支障がない旨の主治医の

診断書も提出してください。

- ・ 既往症や服用中の薬、アレルギーがない場合も、記載内容によって主治医の診断書を提出していただく場合があります。
- ・ 研修期間中に既往症や持病が悪化した場合、国内医療機関受診時に発生する医療費は海外旅行保険適用外のため全額自己負担となります。

※本邦到着後、保険証（メディカルカード）を配付します。

研修中の傷病については保険が適用され、原則診療費の支払は生じません。

但し、既往症や歯科治療は保険適用外です。

- ・ 応募時以降に健康状態に変更が生じた場合は応募した各事務所へ必ず連絡してください。

※記入事項に虚偽があると判明した場合には、研修に参加できなくなる可能性があります。

5) 肖像権および個人情報使用承諾書

(様式第8号)

本研修期間中、JICAが契約するカメラマン又は委託先が、広報（各種報告書含む）として写真及び動画の撮影を行いますので、写真及び動画の使用目的等について確認のうえ、署名してください。研修員用と親権者用があります。

(2) 写真2枚（データ可）

- ・ 最近6ヶ月以内に撮影したもの。（縦4.5cm×横3.5cm、上半身、正面、脱帽、裏面に氏名・国名を記入）

※1枚は身上書に貼付け、もう1枚はデータで他の応募書類とともに提出してください。

(3) 作文（日本語）

- ・ 400字詰原稿用紙3枚以内（1000字程度）。課題はJICA在外事務所が指定します。

※応募者本人が自筆した作文を提出してください。

(4) 旅券の写し

5. (1) 2) 身上書に記載した、渡航時に使用する旅券の写しを提出してください。

①既に旅券を所有している場合

査証や出入国記録が残されている全てのページを提出してください。

②旅券を所有していない場合

JICAからの可否の通知を待つことなく直ちに旅券の取得手続きを開始してください。また、5. (1) 2) 身上書に記載した氏名表記を至急ご連絡ください。

※合否に関わらず、旅券取得経費については自己負担です。

(注) 提供された個人情報、①合否の判定、②研修受入の手続き、③事業実績の取りまとめ等に利用します。

6. 応募書類の提出締切と提出方法

(1) 応募書類の提出締切

在外事務所の選考スケジュールに従い提出してください。

(2) 提出方法

各在外事務所の指定の方法で提出してください。

7. 受入決定

応募書類を基に JICA 横浜にて最終選考を行い、合格通知を発送します。その後、外務省の短期滞在査証発給審査を行います。

8. 研修員の資格取り消し

研修員が次の事項に該当する場合、JICA はその資格を取り消すことがありますので、以下については、特に注意してください。

- 1) JICA の規則、指示及び決定に従わなかったとき
- 2) 研修先の規則に違反した場合
- 3) 日本国の法令に違反した場合
- 4) 本人の故意、重大な過失又は怠慢等により、研修を継続することが困難と認められるとき
- 5) 本人の都合により研修を中断したとき
- 6) 心身の障害、傷病等のために研修を継続することが困難と認められるとき
- 7) 応募書類の記載事項に虚偽が発見されたとき
- 8) その他 JICA が止むを得ないと認める事由があるとき

9. 施設利用

本研修プログラムは JICA 横浜の周辺施設にて実施されることがあります。

10. その他

感染症や災害発生等の影響により、研修プログラムの変更、または来日中止となる場合があります。

【引率者】

1. 引率者の招へい

渡航中・研修中の研修員の生活指導、安全・健康管理その他必要な指導のため、引率者を招へいします。

(1) 引率者の主な役割

- ・ 往路・復路における研修員の引率
 - ・ 研修員の健康等、生活面に係る指導及び対応
 - ・ 研修プログラムへの同行及び実施補助
 - ・ 引率者最終報告会の実施
 - ・ 研修員宿泊フロアの夜間巡回による安全管理・指導
 - ・ けがや急病などの一次受付、及び二次対応者への連絡
 - ・ 研修員の心身の健康管理
 - ・ 休日の研修員外出時の親族への引き渡し
 - ・ 朝、研修員の確認
 - ・ その他、研修員の健康・安全管理と研修実施における必要業務
- ※研修員の年齢に応じた対応が必要になります。
- ※来日前（オンライン）、来日後に引率者へのブリーフィングを実施します。
- ※研修プログラムの引率者の役割分担は引率者を対象とする来日前（オンライン）ブリーフィングで説明致します。

2. 2025 年度引率者選出国

1) 第 1 陣

- ・ 引率者 2 名・・・スペイン語圏の日本語学校教員や日系社会より選出

2) 第 2 陣

- ・ 引率者 3 名・・・ブラジルの日本語学校教員や日系社会から 1 名、
スペイン語圏の日本語学校教員や日系社会から 2 名

3. 引率者資格要件

- 1) 満 20 歳以上で、日本語学校での勤務歴 2 年以上ある日本語学校教員または日系団体会員、JICA 帰国研修員であること。日本語学校で研修員と同年齢のクラスを担当または日常的に日系社会で研修員と同世代の子弟と接している方が望ましく、優先します。（研修参加子弟の保護者は対象外）
- 2) 日本語能力試験 N2 程度以上で研修員とスペイン語又はポルトガル語で意思疎通ができること。

3) 健康で責任をもって業務を遂行できること。

4. 所要経費

規程に基づき次の経費を JICA が負担します

- (1) 指定する経路の往復航空運賃（ただし、航空券の現物支給とし、現金の支給は行いません。航空券取得に必要な税金等、国際航空施設使用料も JICA が負担。）
- (2) 本邦国際空港と宿泊施設間の移動に係る経費
- (3) 乗継のための第三国での宿泊に係る経費
※自国内移動の際に生じる宿泊に係る経費は自己負担です。
※乗継時間 6 時間未満の滞在は対象外です。
- (4) 本邦滞在中及び乗継のための第三国滞在中の生活費等は、規定に応じて来日時に日本円で支給します。
※日をまたがない 6 時間以上の第三国滞在は対象外です。

〈支給額〉

- 1) 本邦滞在中 生活費： 5,000 円/日（食事の現物支給がない日。）
【内訳】 食費 1,100 円×3 食+雑費 1,700 円
※現物支給がある日は、その回数に応じて差し引いて支給されます。
- 2) 第三国滞在中 生活費： 4,000 円/日（朝食費、昼食費及び夕食費として）
※航空会社が手配したホテルに宿泊する場合、食事が提供されることがあります。その際は生活費が支給されないことがあります。
- (4) 宿泊施設の利用料金
- (5) 海外旅行保険料（往路・研修期間・帰路に係る期間。）
※原則として、居住国の国際空港を出発した時から帰国した日の国際空港到着時点までが保険対象期間です。但し、各国の国内移動区間は対象外です。
本邦到着後、保険証（メディカルカード）を配付します。
研修中の傷病については保険が適用され、原則診療費の支払は生じません。
但し、既往症や歯科治療は保険適用外です。
- (6) 所外研修や研修旅行等に係る横浜での滞在先と訪問先の間の日復旅費
- (7) 研修先に対する研修経費

5. 応募書類

応募書類は以下のとおりです。

- ・作成の際は、2025 年研修初日時点の情報を記入してください。
- ・様式は、本実施要領とともに配布された様式を使用してください。
※改訂されているため、過去の様式は使用しないでください。

(1) JICA 様式

1) 身上書（引率者用）

（様式第 5 号）

- ・ パソコン入力可。
- ・ 氏名（日本語）：

この書類に記載の氏名表記（漢字・ひらがな・カタカナ）にしたがって、短期滞在査証の申請書類を作成しますので、自筆の場合は読みやすい字で、渡航時に使用する旅券に記載の表記どおりに記入してください。漢字・ひらがな・カタカナのどの文字を用いるかについても、注意してください。

- ・ 氏名（アルファベット）：

この書類に記載の氏名表記（アルファベット）にしたがって、航空券の予約の確認等を行います。自筆の場合は読みやすい字で、渡航時に使用する旅券に記載の表記どおりに記入してください。

※旅券をこれから申請する方は、必ず旅券申請書に記入する氏名表記で記載してください。旅券と航空券の氏名表記が異なると、渡航できなくなりますので注意してください。

- ・ 国籍：渡航に使用する旅券に記載されている国籍を記入してください。

※国によって短期滞在査証が免除となる場合があります。

詳細については JICA 事務所からの指示に従ってください。

2) 小論文（日本語または英語）

（様式第 6 号）

- ・ パソコン入力可

※様式に記載されているテーマについて執筆してください。

3) 写真 2 枚（データ可）

- ・ 最近 6 ヶ月以内に撮影したもの。（縦 4.5cm×横 3.5cm、上半身、正面、脱帽）

※1 枚は身上書に貼付けてください。もう 1 枚はデータで他の応募書類とともに締切日までに提出してください。

4) 誓約書（引率者用）

（様式第 7 号）

5) 病歴申告書

（様式第 4 号）

- ・ パソコン入力可（署名は自筆）

- ・ 既往症、服薬中の薬、アレルギー等の持病も、必ず申告してください。

- ・ 現在治療を受けている疾患があれば、応募時に研修参加に支障がない旨の主治医の診断書も提出してください。

- ・ 既往症や服用中の薬、アレルギーがない場合も、記載内容によって主治医の診断書を提出していただく場合があります。

- ・ 研修期間中に既往症や持病が悪化した場合、国内医療機関受診時に発生する医療費

は海外旅行保険適用外のため全額自己負担となります。
※本邦到着後、保険証（メディカルカード）を配付します。
研修中の傷病については保険が適用され、原則診療費の支払は生じません。
但し、既往症や歯科治療は保険適用外です。

6) 肖像権および個人情報使用承諾書 (様式第8号)

本研修期間中、JICA が契約するカメラマン又は委託先が、広報（各種報告書含む）用として写真及び動画の撮影を行いますので、写真及び動画の使用目的等について確認のうえ、署名してください。

(2) 旅券の写し

5. (1) 1) 身上書に記載した、渡航時に使用する旅券の写しを提出してください。

①既に引率者が旅券を所有している場合

査証や出入国記録が残されている全てのページの写しを取り付けてください。

②引率者が旅券を所有していない場合

JICA 横浜からの受け入れ回答を待つことなく直ちに旅券の取得手続きを始め
てください。また、5. (1) 1) 身上書に記載した氏名表記を至急
ご連絡ください。

※旅券取得経費については自己負担となります。

6. 応募書類の提出締切

(1) 応募書類の提出締切

提出締切日は、貴国の選考スケジュールに従ってください。

(2) 提出方法

各在外事務所の指示に従ってください。

【注意事項（研修員・引率者・ご家族の方）】

1. 研修参加にあたって

- (1) 感染症や災害発生等により、研修プログラムの変更または来日が中止となる場合があります。
- (2) フライトスケジュールは JICA 在外事務所が決定の上、合格者に連絡します。
- (3) 滞在延長や帰路変更は、研修員/引率者の自己負担であっても認められません。
研修終了後は JICA が定めるスケジュールで帰国してください。
- (4) 原則として、往路・復路とも研修員が集合し、集団で渡航します。
- (5) 家族の同伴は認められません。

2. 渡航準備

(1) 旅券

旅券を所持していない研修員と引率者は、早急に申請手続きを開始してください。
合格の連絡を受けてから旅券取得手続きを開始すると、査証取得が間に合わないおそれがあります。

※日本旅券を申請する場合には、戸籍謄本の取得等に時間を要します。

(2) 査証

- ・日本以外の旅券で渡航する場合

※査証は、日本の外務省で審査が行われた後、居住国の日本領事館に申請し、発給されます。国によっては短期滞在査証が免除される場合がありますので、JICA 事務所の指示に従ってください。

※身上書には、渡航時に使用する旅券に記載の国籍を記載してください。

(3) その他必要書類

- ・日本旅券で渡航する研修員・引率者については、居住国における身分証明書等、在住国に居住していることを示す書類等を、念のため持参してください。（原本の持参が難しい場合には写しを持参してください。）
- ・居住国や経由する国によって査証以外の書類（未成年者の渡航に対する親権者の承諾書等）が要求されることがあります。

帰国時、未成年の日本人が片道航空券で居住国に渡航するようにも見えるため、帰路の空港でのチェックイン時に航空会社から当該研修員・引率者が貴国に居住している（永住権・定住権等がある）ことを示す書類の提示を求められるケースがあります。

3. 滞在中及び帰国時

(1) 持参物

- ・風邪薬や頭痛、腹痛の薬（鎮静剤）などは、普段から飲み慣れたものを持参ください。

(2) 施設利用

- ・JICA 横浜の宿泊棟が利用できない場合、周辺の宿泊施設に宿泊します。
- ・JICA 横浜のセミナールームが利用できない場合、研修プログラムは周辺施設で実施します。

(3) 体験入学

中学校体験入学の際、受入校の高校受験準備のため3年生（15歳相当）のクラスでは研修員を受け入れられないことが多く、15歳の研修員であっても中学1～2年（13～14歳相当）のクラスに入ることがあります。

以上

別紙1 研修員 応募書類様式

- ・推薦書（様式第1号）
- ・身上書（様式第2号）
- ・親権者の誓約・同意書（様式第3号）

別紙2 引率者 応募書類様式

- ・身上書（様式第5号）
- ・小論文（様式第6号）
- ・誓約書（様式第7号）

別紙3 研修員・引率者共通 応募書類様式

- ・病歴申告書（様式4号）
- ・肖像権および個人情報使用承諾書（様式8）